

東郷中だより

学力特集号
平成29年11月15日
北九州市立東郷中学校
校長 大坪 和廣

平成29年度 全国学力・学習状況調査の結果の報告と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成29年4月18日（火）に、3年生を対象として、「教科（国語、数学）に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

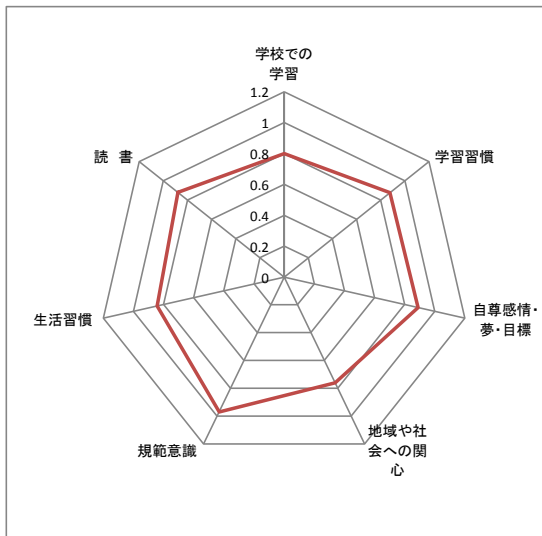
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 教科に関する調査結果の概要

教科・区分	学力調査の分析（傾向や特徴）	全国平均正答率との比較
国語A	<ul style="list-style-type: none"> 文脈に即して漢字を正しく書くことが苦手である。 適切な語句を選択する問題の5問中4問で全国平均正答率を上回っており、5問すべてにおいて無解答率が低かった。 	下回っている
国語B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を下回っており、特に自分の考えを書くことが苦手である。 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み内容を理解したり、集めた材料を整理して文章を構成したりする問題に課題がある。 	下回っている
数学A	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を下回っており、無解答率も高く、基礎的な計算力をつける必要がある。 簡単な確率を求める問題については、正答率が高く全国平均を上回っていた。 一次関数の表で変化の割合を問う問題では、全国平均正答率を少し上回っていた。 	下回っている
数学B	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に全国平均正答率を下回っており、無解答率も高く、応用問題に対する苦手意識がある。 特に事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題や、筋道を立てて考え、証明する問題の無解答率が高い。 	下回っている

2. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<ul style="list-style-type: none"> 家で、自分で計画を立てて勉強をしている生徒の割合が増え、全国平均を上回った。 授業の最後に学習の振り返りをよく行っていたと思う生徒の割合も増え、全国平均もわずかに上回った。 授業以外に、1日60分以上勉強する生徒の割合は減少し、全国平均も下回っている。 授業では、課題に対して自ら考え、自分から取り組み、友達と話し合う活動をよく行っている生徒の割合は減少し、全国平均を下回っている。 生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う生徒の割合は増加したが、全国平均を下回っている。 読書が好きな生徒の割合は増加したものの全国平均には及ばなかった。 スマートフォン等を使ったゲームをする時間が、1日当たり60分未満の生徒は減少し、全国平均も下回っている。 規範意識の高まりが見られるが、全国平均には及ばなかった。 地域や社会への関心は高くなく、全国平均を下回った。 自尊感情については、昨年度よりも低下し、全国平均を下回っている。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組（全校で・学年で・学級で）

<学力向上に関する教員研修の実施>

- 教員が授業力向上を目指し、「授業改善シート」を活用し、自己評価するとともに互いに授業参観し、相互評価する。
- 教員は必ず「めあて」と「まとめ」を板書し、生徒に振り返りの時間を確保する。
- 授業の「めあて」と「まとめ」に整合性をもたせ、ノートやワークシートに「めあて」と「まとめ」が記述されるようにする。
- 1単位時間の授業の中に思考を深める「発問」を工夫し、必ず生徒間の話し合い活動や教え合い活動と「書く活動」を取り入れる。
- 学期末に生徒アンケートをとり、生徒の学びの実態を把握し、全職員で共有化を図る。
- 校内公開授業を実施し、全教員で授業観察、研究協議を行い、個々の教員の授業力向上を目指す。
- 学校外においても多くの教員が、他校の教員の授業を参観できる機会をもてるようにし、参観後は校内研修で報告会を行い、教科指導研修を広げ深めていく。

<学力向上のための学校での生徒の自学自習の取組>

- 朝自習にきちんと取り組ませ、必ず提出させ、教員が点検する。
- 朝自習の4/5を読書活動に当て、本に触れることを習慣づける。また、読んだ本の概要や要点をまとめさせたり、感想を書かせたりする。
- 帰りの会の中で、学級担任や学年職員の指導により、国語・数学・英語の問題や過去の入試問題等に取り組ませ、個々の弱点強化を図る。
- 放課後、各教科の宿題や課題を職員室前の学習ゾーンで取り組ませ、生徒に自学自習の習慣と期限内に確実に提出する習慣を身に付けさせる。
- 普段の宿題に加え、国・社・数・理・英の5教科の週末課題を出し、週明けに提出させ、各学年職員で確実に点検する。
- 学校独自の自学自習ノート『東郷ノート』のさらなる活用を推進する。先輩の『東郷ノート』の模範例を後輩が参考にできるように、掲示する。
- 定期考査の前に『出るかもプリント』を活用させ、生徒に学習の成就感や達成感をもたせる。
- 教育相談等の時間を活用し、定期考査の予想問題や各教科の課題に取り組ませる。

<「書く」ことの習慣化>

- 「明日への伝言板」の視聴や道徳の授業では、自分の感想や考えを書くことに慣れさせるとともに、学校行事や講演会等では、必ず事後に感想文を書く経験を積ませる。
- 生徒の感想文等は、教室や廊下に掲示し、誰もが読むことができるようにし、優れた作品については『学校だより』等に掲載する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

<家庭学習の取組>

- 学校を離れた場所で、どの生徒も一人でできる宿題を各教科で出題するようにする。
- 家庭学習ノート『東郷ノート』（1日1ページ）を必ず活用し、担任や学年教員が毎日点検する。
- 模範となる『東郷ノート』を掲示して表彰し、生徒のやる気を喚起し、啓発を行う。
- 「家庭学習チャレンジハンドブック」を参考にさせ、学習内容を充実させることができるようにする。

<週末課題の実施>

- 毎週末各教科（国・社・数・理・英）で課題を出し、週明けに担任や学年教員が点検することを定着させ、学校を離れた場所で生徒が自主学習する習慣を身に付けさせる。
- 週末課題の内容の定着確認の小テスト等を行い、学習の達成感や成就感を得ることができるようにする。
- 生徒が家庭学習を仕上げることができなかった場合は、職員室前の学習ゾーンで確実に仕上げることができるよう、教員が支援する。

<家庭への協力のお願ひ>

- スマートフォン等のメディア接触時間を減らし、読書時間を増やし、週末課題を確実に行うよう、学校だより、学年・学級通信や学校のHP等で家庭の協力をお願いする。